

作成日：1995年07月04日

改訂日：2024年05月01日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	メタロンM
供給者の会社名称、住所及び電話番号	セッツ株式会社 大阪府堺市西区築港新町1-5-10 072-280-0920
想定される用途及び当該用途における使用上の注意	金属部品・機械・工場の床・船舶の油污れの洗浄

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
皮膚感作性	区分1
発がん性	区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性・麻酔作用)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)	区分2
----------------	-----

注記: 記載のない場合は「区分に該当しない」、「分類できない」、「分類対象外」のいずれかである

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
発がんのおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 粉じん又はミストを吸入しないこと。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 環境への放出を避けること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

- 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名または一般名	濃度又は濃度範囲(%)	CAS番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
硫酸塩	非公開	7757-82-6	1-501	—
炭酸塩	非公開	497-19-8	1-164	—
リン酸塩	非公開	非公開	非公開	非公開
珪酸塩	非公開	非公開	非公開	非公開
界面活性剤	非公開	非公開	非公開	非公開
オキシビスホスホン酸四ナトリウム	2~4	7722-88-5	—	—
ジエタノールアミン	1%未満	111-42-2	2-302、2-354	—

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	汚染した衣類を再使用する際は洗濯をすること。 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。適切な換気を確保する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂、霧状水を使用すること。
使ってはならない消火剤	データなし
火災時の特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性もしくは有毒なガスを放出する。
特有の消火方法	安全に対処できるならば着火源を除去すること。 危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。 消火水の下水への流入を防ぐ。 消火作業は風上から行う。
消火を行なう者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な保護具を着用する。 燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、硫黄酸化物・窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際に

は、呼吸保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。作業の際には適切な保護具(保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
環境に対する注意事項	こぼれた場所はすべりやすいため注意する。 漏れ出した物質の河川、下水、排水溝、低地への流出を防止し、環境への影響を起こさないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	スコップ、ウエス等で容器に回収する。 回収物はラベルを貼って密閉できる空容器に保管し、安全な場所に移す。
二次災害の防止策	漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。排気/換気設備を設ける。
安全取扱注意事項	粉じんを吸入しないこと。 容器はその都度密栓する。 皮膚に触れないようにする。眼に入らないようにする。 保護具を着用すること。
接触回避	酸性の製品との接触を避けること。
衛生対策	取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

安全な保管条件	施錠して保管すること。 日光の直射を避ける。通風のよいところに保管する。
安全な容器包装材料	ステンレス、ポリエチレン、ポリプロピレン

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	濃度基準値: 令和5年厚生労働省告示第177号 (令和6年4月1日より) ・ ジエタノールアミン 1mg/m ³ (八時間濃度基準値)
設備対策	許容濃度 ・ 炭酸ナトリウム 日本産業衛生学会(2020年) 第3種粉塵 2 mg/m ³ (吸入性粉塵) 8 mg/m ³ (総粉塵) ・ オキシビスホスホン酸四ナトリウム ACGIH(2005年版): TLV-TWA 5 mg/m ³ (無水物) 屋内作業の場合は、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるようにする。
保護具	防塵用マスク
呼吸用保護具	不浸透性の保護手袋を着用する。
手の保護具	化学防護手袋の材質は下記を推奨する。 (皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアル及び化学防護

眼、顔面の保護具	手袋メーカー情報より)
皮膚及び身体の保護具	より好ましい材質: ニトリルゴム、ブチルゴム、ネオプレン/天然ゴム、ニトリル/ ネオプレンゴム、多層フィルム(LLDPE)、多層フィルム (EVOH)
特別な注意事項	必要に応じ、取扱物質、作業内容等を保護具メーカーへ連絡 し、化学防護手袋の選定の助言を受ける。 保護眼鏡(ゴーグル型) 長袖、長ズボン(化学薬品が浸透しない材質) 保護具は定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	粉体
色	白色～淡黄色
臭い	原料臭
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	(炭酸塩)400°Cで分解して炭酸ガスを放出する。
pH	11.0 (2%水溶液・25°C:代表値)
動粘性率	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
化学的安定性	通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	酸と発熱反応し、CO ₂ を放出する。 水溶液は強塩基性で、酸と激しく反応する。
避けるべき条件	高湿度雰囲気
混触危険物質	酸性物質
危険有害な分解生成物	炭素酸化物、窒素酸化物、硫黄酸化物

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	(珪酸塩) 区分4 ラット LD50 1280 mg/kg
急性毒性(吸入)	(炭酸塩) 区分4 吸入投与 ラット LC50 2,300mg/m ³ /2h = 1.15mg/L/4h(エア ゾール)より区分4とした。
皮膚腐食性/刺激性	(珪酸塩) 区分1B in vitro膜バリア試験結果より

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	(界面活性剤) 区分1 ウサギ, 未希釈, OECD405
呼吸器感受性	データなし
皮膚感受性	(界面活性剤) 区分1 陽性 LLNA法(マウス)
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	(ジエタノールアミン) 区分2 IARC-Gr.2B: ヒトに対して発がん性があるかもしれない
生殖毒性	(ジエタノールアミン) 区分2 ジエタノールアミンに関するラットの妊娠6～19日に経口投与による発生毒性試験において、125または200 mg/kg以上の用量で、体重増加抑制、摂餌量の低下、腎臓重量の増加など母動物の一般毒性が見られた用量で、生殖に対する影響として、着床後死亡率の増加および出生後早期死亡の増加が報告されている(NTP TER 96001 (1999))ことから、区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	(炭酸塩)区分3(気道刺激性、麻酔作用) ラット、マウスおよびモルモットを用いた試験において、吸入ばく露直後に呼吸障害を起こし、呼吸困難、および喘鳴音が認められ、3～4時間後に治まった(SIDS (access on July 2008))との記載より区分3(気道刺激性)とした。一方、ラットに経口投与後の症状として運動失調、虚脱、嗜眠が記述され、生存例では5日目までに症状が消失している(SIDS (access on July 2008))。また、経皮投与後24時間の間に嗜眠が観察されたが死亡の発生はなかったと記載されている(SIDS (access on July 2008))。したがって症状には回復性があり、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	(界面活性剤) 区分1 甲殻類(ミッドシュリンプ) EC50: 1.0 mg/L (48hr)
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
廃液、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律や関係する法規に従って処理を行うか、委託する。
容器、機器、装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。
空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制	航空輸送はIATA及び海上輸送はIMDGの規則に従う。
国連分類	非該当
国内規制	陸上輸送は消防法等に定められている運送方法に従う。 海上輸送は船舶安全法に定められている運送方法に従う。 航空輸送は航空法に定められている運送方法に従う。
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	非該当
航空規制情報	非該当

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質 <ul style="list-style-type: none"> ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。) 3.2% (管理番号 407) N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)アルカンアミド(アルカンの構造が直鎖であり、かつ、当該アルカンの炭素数が8、10、12、14、16又は18のもの及びその混合物に限る。)、(Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9-エンアミド及び(9Z, 12Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9, 12-ジエンアミド並びにこれらの混合物 2.9% (管理番号 707)
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(営業秘密に当たるため含有量を幅表記している) <ul style="list-style-type: none"> オキシビスホスホン酸四ナトリウム 2~4% ジエタノールアミン 1%未満 <p>皮膚等障害化学物質 該当</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。) 炭酸ナトリウム(眼のみ)
毒物及び劇物取締法	非該当

16. その他の情報

参考文献

- 「JIS Z 7252:2019」(日本規格協会)
- 「JIS Z 7253:2019」(日本規格協会)
- 「安全データシート」(各原料メーカー)
- 「職場のあんぜんサイト」(厚生労働省)
- 「GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針」(日本化学工業協会)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。
輸出に際しては、各国法規の確認調査が必要となります。